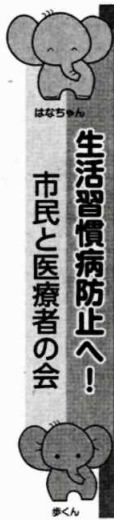


小象の「元気」マ行「ム」



生活習慣病防止へ！ 市民と医療者の会

皆さんは内分泌疾患と聞いてどのような病気を想像しますか？ 内分泌疾患とはホルモンの病気です。「男性・女性ホルモンと関係ある？」と考えた方もいらっしゃるかと思います。それだけではありません。

① 1000～2500人
② 100～250人に1人
③ 10～25人に1人

今回は、内分泌疾患の中でも比較的頻度の高い疾患について、お話しします。

まずは、甲状腺の病気についてです。甲状腺は、のどほとの下に位置する蝶々のような形の臓器で、新陳代謝を高める甲状腺ホルモンを分泌しています。甲状腺ホルモンは成長、発達、新陳代謝の調節に欠かせない重要なホルモンですが、多すぎたり少なすぎたりすると身体に変調を来します。

内分泌疾患に注意

症状見過ごさず受診を

甲状腺機能亢進症の患者さんではイライラ、手の震え、発汗過多、脈が速い・乱れる、疲れやすい、体重が減る、なまめが聞こえる、など多岐にわたる症状がみられ、甲状腺機能低下症の患者さんでは、寒がり、肌の乾燥、便秘、疲れやすい、食べない割に体重が増える、などの症状がみられます。

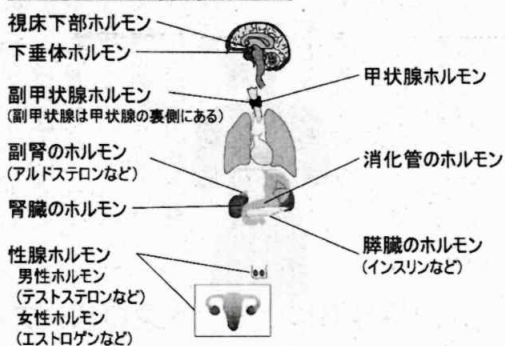
甲状腺機能亢進症の患者さんでは、甲状腺機能低下症の患者さんでは、寒がり、肌の乾燥、便秘、疲れやすい、食べない割に体重が増える、などの症状がみられます。

甲状腺の病気には、バセドウ病に代表されるような甲状腺ホルモンが過剰に分泌される（甲状腺機能亢進症を呈する）病気と、橋本病に代表されるような甲状腺ホルモンが不足する（甲状腺機能低下症を呈する）病気があり、いずれも典型的には甲状腺の腫れ（甲状腺腫）が認められます。

しかし、これらの症状があれこれひとつずつ存在する空豆大の臓器で、コルチゾール、アルドステロン、カテコールアミンなど生命維持に重要なホルモンを分泌します。そのうちアルドステロンというホルモンが副腎から過剰に分泌される病気が原発性アルドステロン症です。

この患者さんでは通常の高

内分泌内科で主に扱うホルモン



△値が低いなどがある方は、原発性アルドステロン症が疑われるため内分泌内科での精密検査をお勧めします。

さてクイズの答えです。内分泌疾患の中でも甲状腺機能低下症（潜在性を含む）の患者さんが最も多く、成人の4

10%に見られるとの報告があり、その他の内分泌疾患もありません。

このように内分泌疾患をもつ患者さんは多いのに、意外と見過ごされている場合も多いと考えられます。

一方で適切な診断・治療により症状が劇的に改善する

